

議題： 心血管系疾病発症リスクに関する B 群ビタミンの利点

著者： Marti-Carvajal AJ, Sola, Lathyris D, Salanti G.

資料： コクランデータベース Systematic Reviews 2009,
Issue 4, Art. No. :CD006612

発表日： 2009 年 10 月 7 日

結論：

ビタミン B6、B12 及び葉酸複合剤によるホモシステイン低下効果検討試験の結果、心筋梗塞、心臓発作(脳卒中)のような心血管系疾病発症のリスク低減またはその他の原因による死亡の低減に、上記複合剤は役立たない可能性があるという報告を、コクラン科学総説が発表した。この報告は、8 件の無作為対照比較試験に関する論文について再検討した総説報告で、8 件の被験者総数は合わせて 24,210 人になる。

IADSA の見解：

1. 試験開始時と B 群ビタミン複合剤摂取後に、血中のホモシステイン濃度を測定した試験研究報告は、8 件中 5 件であった。またそれらの試験の試験開始時の血中ホモシステイン濃度の平均値は $12.4 \mu\text{mol/L}$ であり、ホモシステイン濃度は、摂取後ゆるやかな上昇を示した。
血中ホモシステイン濃度が $15 \mu\text{mol/L}$ 以上の場合に高ホモシステイン血症が発症するが、被験者でこのレベル以上の平均値を示した被験者はいない。
また、最近の研究では、B 群ビタミンは、ホモシステインレベルが $15 \mu\text{mol/L}$ 以下を示す過ホモシステイン血症患者の心臓血管系に関連する疾病による死亡率を著しく低減することも示されている。
2. ホモシステインの増加レベルは、以前に心血管系疾病発症リスク因子があった患者における死亡率と心血管系疾病発症の指標となっている。ホモシステインレベルの中等度の上昇と心血管系疾病発症イベントの関係について結論づけるには、科学的根拠が不十分であると、この文献では報告している。さらに、総説では、心臓発作や脳卒中、または死亡の発生率は、B 群ビタミン投与者とコントロール群との間で違いはないと言っている。

3. 被験者の健康状態は一樣でなく、心血管系疾病発症リスクの状況も異なっている。心血管系疾病発症者もいれば、心血管系疾病発症リスク保有者もいる。
4. 葉酸、ビタミン B6、B12 の 1 回分の摂取量は、試験ごとに異なる管理状況であった。ひとつの実験において、コントロール群に投与された B 群ビタミンの摂取量は、より少なかった。
5. B 群ビタミンと心血管系疾病発症による死亡率の低減との間にある関係性については、多くの信頼がおける既報の科学情報に示されている。この総説は、すでに発表されているものと科学的に相いれないものである。従って、この総説は、バランスのとれた結論に達しているとはいえない。

その他の問題点：

今回の総説で言及された研究は、二次予防に関するものである。今後、科学的根拠をより盤石にするには、心血管系疾病発症疾患の既往症をもたない被験者集団を対象とした一次予防についての研究を重ねることが必要であろう。